平成 28 年 2 月　［第4号］［本社・岡山支店／株式会社 三祐コンサルタンツ］

NEWS LETTER

第４回　みんなで
農業体験プロジェクト

本社・岡山支店

平成 27 年　5 月 30 日(土) 田植え
平成 27 年 10 月 10 日(土) 稲刈り

田植・稲刈体験

1　原点確認を続ける意味 ～農作業を体験する～

農学あっての農業土木：左記の文言は恩師である穴瀬眞先生（東京農工大学名誉教授）の口癖でした。多分、農業土木技術の需要は「農家の生産活動があること」を前提としているという意味でしょう。すなわち、用水が確保されても、耕作者がいなければ作物はできないということです。三祐コンサルタンツ大府農場も以前は耕作放棄地だったそうです。

土や水に触れる：本農業体験は、一反（10a）に 50 人を投入する人海戦術です。大区画化・経営規模拡大・機械導入を推奨する農政に逆行するのですが、参加者全員が土・水・稲に触れることができます。今回で 4 年目となり、またまた豊作の慶びを味わいました。

体験による情報集積：焼き芋は冬の風物ですが、甘藷（さつまいも）の旬はいつでしょうか。地域によって差異はありますが、大府農場では「6 月に定植して 10 月に収穫」しています。この事実は揺るぎない情報であり、多くのことを想像する出発点となるでしょう。ちなみに 6 月の田植えというのは、関東や東北より遅いようです。理由を想像できますか。

継続する意味：良いコンサルタンツの資質は豊かな想像力を持っていることと聞きます。想像力は予想と体験の繰り返しで醸成されます。すなわち、農家の日常を推測し、農業体験で推測を修正する。これにより、想像する範囲が拡大し精度も向上するわけです。こじつけですが、農業体験継続の意味はそこにあると思いたい。（T.K）

2　愛知用水で育てる ～4年目の米作り～

天候にも恵まれ、5 月に植えられた幼苗は、黄金色の穂を実らせ私たちの刈り取りを待っていた。農作業が始まると至る所で歓声が起こる。大人も子供も、田植、稲刈り、小動物との触れ合いが楽しいのだ。稲作は日本人のDNAかもしれない。日本農業は、耕地の大区画化や汎用化など、攻めの農業が模索されている。その一方で、農業には豊かな地域社会を育むという効果がある。小さな圃場でも豊かな自然との触れ合いの機会を与えてくれる。愛知用水が、このように木曽川の水を知多半島まで運び、地域の農業振興や環境の保全の下支えとなってくれることに心から感謝したい。（T.M）

目次

今号のハイライト

原点確認 継続の意味　1
４年目の米作り　2
今年も学びから　3
みんなで楽しく　4
職場の皆で体験すると..　5
手刈りの難しさ、気持ちよさ　6
今回の農業体験を振り返り　7

3　今年も学びから　～ 稲のこと、植え方・刈り方 ～

今年の田植えは「コメ彦（写真右）・コメ子（左）」というキャラクターを演じた、田植えの説明から始まりました。皆にわかりやすく、印象に残るような説明を意識し準備しました。うまく伝わったかわかりませんが、参加者皆さんの笑顔が見られてよかったです。せっかく創り・演じたキャラクター、今後の農業体験でもシンボル的な存在になってくれたらなぁ。（S.K）

米一粒一粒には、多くの人たちの努力がつまっています。コメ彦とコメ子からのメッセージを通じて、お米作りに携わる方々、愛知用水をはじめとする恵まれた水・自然環境へ、少しでも思いを馳せて頂けたのなら嬉しいです。（M.I）

今年の救護係

水を張った田んぼに足を取られながら苗を植えたり、慣れないカマで一束ずつ稲を刈ったり、楽しい農業体験でしたが、無事に終えられるか終始ハラハラしていました。最終的には、一人も怪我人・病人を出さず、農業体験を終えられ、お米が一層おいしく感じられました。（M.I）

4　みんなで楽しく農業体験　すべてを手植えにて

田んぼの両端から 2 チームに分かれて田植えをスタート。どちらもまっすぐに張られた線に合わせて植えていきましたが、ぶつかった田んぼの中央には三角形の空白地帯が・・・。なかなか上手くはいかないものです。我が家の子供たちも 2 回目の手植え作業で、今回こそはやってくれると思っていましたが、田んぼ周辺のカエルやバッタの誘惑には勝てず、苗を放り出してそっちに夢中。皆さんにはご迷惑をおかけしました。すみません。（Y.O）

約 15 年ぶりに素足で田んぼの中に入り、手植えを行いました！ひんやりと冷たく気持ちいい田んぼの中でしたが、はじめは何度も足元を取られ、とても苦戦してしまいました。田んぼ 1 面をすべて手で植えるのは大変でしたが、終わった時はとても達成感がありました！植えた後の苗の列はジグザグでしたが、様々な世代の人が同じ田んぼに集まり、農業体験を行う機会なんてめったにないので、とても良い経験になったと思っています。（M.Y）

5　職場の皆で農作業を体験すると..

職場の皆さんとの農作業は、非常に良い交流の場になっていたように思います。青空の下、田んぼでの作業では、会社での仕事や仕事後の飲み会の時とは違った話題で溢れていました。皆で体を動かし，汗を流して共同作業をすることが，普段とは別のコミュニケーションを生んでいました。今後も三祐職員の農業体験が続いていけば良いなと思いました。(T.E)

好評につき、今年も

田んぼの調理場にて

秋晴れの下、じゅわじゅわと音をたててあがった天ぷらは、とても美味でした。自然の恵みを青空の下でみんな と調理する、その楽しみも含めた深い味わいであり、良い体験となりました。(Y.M)

お仕事は？と尋ねられて一言で答えるのは難しかったのですが、田植えと稲刈りに行ってからは、農業用水の会社に勤めています。と話すようになりました。このプロジェクトは、会社を通じて昔ながらの「結い」を体験できる機会ではないかと思います。自分が関わるところは一部分ですが、皆で集まってやると楽しいですよ。(T.T)

入社して間もなく参加した稲刈り体験。先輩たちの中には同じ会社で働いていても話す機会のなかった人がたくさんいました。稲刈りを一緒に行うことにより親しくなることが出来ました。先輩たちの親子のやり取りも微笑ましかったです。とても有意義な休日でした。(N.I)

皆さんとたわいもない話をしながら収穫を楽しみました。4年目ともなると皆さん手慣れたもので収穫作業が流れるように早くて驚きました。1年目に焦げ焦げにしていた焼き芋も火起こしからうまくできおいしくいただきました。土に触れるのはやっぱり楽しいと改めて実感しました。(N.N)

6　手刈りの難しさ、気持ちよさ

今回の稲刈りで、私たちは初めて稲刈り用の鎌を手にしました。稲を刈る瞬間、直接稲に触れると、思っている以上に稲の 1 本 1 本が太く、田植えをしたときの苗の状態から、大きく成長したことを実感しました。鎌の刃を入れて刈ろうとしても、なかなか思うようには刃が入らず、人の手で稲を刈ることの難しさを実感するとともに、稲の生命力やお米一粒の重みを感じることができました。(I.K)

農業体験プロジェクト

本社・岡山支店　担当
T.K、
M.A、T.O、T.O、F.T、K.Y、
Y.Y(敬称略、五十音順)

7　今回の農業体験を振り返り

入社して3年、稲刈りには毎年参加しています。たった3年でも上達はするもので、切れ味が悪いと後輩から渡された鎌でもズバッと綺麗に稲を刈ることができました。また、稲刈りの楽しみの一つ(大部分)といえばおいしい焼き芋ですが、こちらも今年は焼き芋用にバターが用意されたり、さらには揚げたての天ぷらが振る舞われたりと年々進化を続けています。次回のご馳走への期待が膨らみ、当分稲刈りへの皆勤は続きそうです。(Y.K)

仕事の都合で参加できないこともあるのですが、子供をつれて参加することが家族の行事になってきました。今年は収穫したイモをその場で天ぷらにして食べることができました。天の恵みへの感謝と共にご準備された方々に感謝です。運営は新人の方々のチームワークが素晴らしいですね。特に工夫を凝らした作業説明は回を重ねる度にレベルが上がってきて準備にも力入っているなぁと感心します。次回も楽しみにしたいと思います。(K.A)

娘二人とイネ科花粉症の妻と参加させてもらい今年で3年目。上の娘は小学3年生になりいつのまにか鎌の扱いも上達。幼稚園年中の下の娘はまだまだ危なっかしいので刈った稲を運ぶお手伝い。稲刈りが終わって焼きイモでお腹を満たした後、下の娘は芋堀りに行かずカエル探しに夢中。ちょうど良いミニサイズ。そのうち右手に茶色、左手に緑色の2匹捕りをするほど上達。娘達は田んぼに馴染み、刈った稲からできたお米を食べられ、稲刈り体験はとても良い食育になりました。(O.M)

今年も美味しいお米とサツマイモを頂きました。社員と家族が、お天道様の下でわいわいにぎやかに田植えをし、秋には、にこやかにお芋の天ぷらをほおばる。とてもすてきな光景です。日々の仕事では、どうしても難しい顔で取り組まなければならない時間が多いけど、ここにはそんな空気はありません。今年は、寄せ書き案山子君に加え新しいキャラクターも増えました。きっと来年もくるだろうね！ねっ！こめ彦、こめ子。会社に入り、最初に同期と田植えをした。お父さんと、お母さんと一緒に田んぼでカエルを追いかけた。引っ張ってもなかなか出てこないお芋を掘り出した･･･みんなが笑顔でした。そういう楽しい記憶をつむいでくれた担当の方々に感謝しこのイベントがまた続きますように。(E.T)

第４回　みんなで農業体験プロジェクト

稲刈り体験　　平成 27 年 10 月 10 日(土)　開催